**令和７年度　校内研修計画**

 　　　　　 　　　　　　大藤小学校

**１　学校課題**

大藤地区は，甲州市塩山地区の東部に位置し，古くから，桃，すもも，ぶどう等の果樹栽培がさかんな緑豊かな地域である。地域の方々や保護者は，学校教育に協力的で，児童は総合的な学習をはじめとする様々な教科等のなかで，安心して地域に出て学習している。また，読み聞かせ等で，地域の方が定期的に学校に来て，児童とふれ合う活動もある。本校は全校児童３７名の小規模校で，今年度は，２・３年生と４・５年生が複式学級となっている。学年ブロックによる合同授業があるため，異学年の交流が多いことが特徴であり，ほとんどの児童は全校児童の顔と名前が一致する。また，授業も行事も，一人一人にスポットライトが当たり，人前に立って発表する機会を得やすい。一方で，人間関係が固定化してしまう様子が見られる。仲間内での立ち位置や，自他に対する見方が固定し，競争や議論が起こらず，得意な子やリーダー性のある子の意見に流されがちである。気心の知れた関係が築かれるが，学習と生活で態度を切り替えたり，人と意見を切り離して考えたりすることが苦手であり，自分の考えや思いを表現する力に課題がある。

**２　研究主題**

|  |
| --- |
| **「主体的に表現する児童の育成」**～少人数学級における学習者主体の授業をつくる指導方法の工夫～ |

**３　主題設定の理由**

子どもたちが，10年，20年先も自立して生き抜く力を培うために，児童は，自ら学び，自分を表現していく力を身につけていかねばならない。そのために，これからの授業は，「個別最適な学びと共同的な学びの一体的充実」と「学習者主体」を日常化していくことが求められている。実現するには，子ども一人一人を支援する観点から，指導方法や指導体制の工夫や改善する必要がある。昨年度の研究では，ICTの活用により，発言が苦手な児童も意思表示しやすくなり，児童の表現への抵抗感が緩和されたことが成果として挙げられている。表現の手段が増えたことで，授業，行事，児童会活動など，様々な場面で児童が主体的に発言・行動する機会をつくることができた。また，研究授業を通して，指導主事からの助言を得ることで，様々な方法や考えを共有し，授業改善への意識が高まった。特にデジタルとアナログの選択場面を設定し，児童が根拠をもって選べるように指導することの重要性が認識された。

今年度は，少人数学級という環境を最大限に活かし，児童がICTやその他のツールを活用しながら，「学ぶこと」や「学び方」を主体的に選択できる場面を増やし，「個別最適な学び」と「協働的な学び」をより具体的に実現するための指導方法を模索したい。

**４　研究の具体的内容と方法**

**１　　教員のICTを活用した指導力の育成**

（１）講師を招聘。「学習者主体の授業」の指導方法について研修。

（２）校内での実践研修

**２　　授業づくり（**[**甲州市Teacher’s Note**](https://drive.google.com/file/d/1K8osckAbGleIyAN3Gkz0XZatpz9kJHc5/view?usp=sharing)**を参照）**

（１）子ども観の問い直し。教師は多様性の深い理解と自立性を信頼する覚悟が必要。

（２）CRT調査，全国学力・学習状況調査の分析。学習面の成果を把握し，課題を明確にして授業改善に生かす。

（３）先進校の事例に倣い，段階的に自己決定的な学習を増やしていく。

（４）少人数や小集団，個を生かして，自由に使える学習環境の構築。

（５）思考スキルの段階的活用。

（６）学習の見通しを持てるような学習シートの作成と活用。

（７）一人一実践。

**３　　児童の実態把握と集団づくり**

（１）WEBQUを生かした児童理解と集団づくり。PDCAサイクルを活用。

（２）WEBQUの結果分析とアタックシートを活用した集団づくりを行う。

**４　　学びを促す環境づくり**

（１）学年に応じた「大藤スタンダード」の徹底。

（２）５つの合言葉の具体的な場面での取組を実践。

〈わくわくべんきょう〉・・・勉強のスタートは，驚きや疑問，楽しく学ぶ。

〈のびのびとうこう〉　・・・何事も夢中でする。徹底してする。

〈みんななかよし〉　　・・・いじめや仲間外れを生まない集団でいよう。

〈にこにこあいさつ〉　・・・あいさつ，返事をしっかりする。

〈いきいきかつどう〉　・・・自ら考えて行動する。自分で決めて，自分で守る。

（３）朝，端末を開く習慣をつける。心の羅針盤，classroomなどで今日の授業内容のチェック。

（４）家庭学習定着を図る環境整備

①「家庭学習」を年間通して実施をする。

　ノートだけにこだわらない学び

　　→自己決定と自己調整　スプレッドシートで自主学習シートを作成。選択・記録を行う。

②家庭学習スタンバイの時間を帰りの会の前にとる。

③家庭学習と授業を有機的に結びつけ，知識探求や学習の復習をする。

④ノート等が終わったら，校長先生にも見てもらう。

⑤みんなに見せたい自学はクラスルームに掲示する。（写真やファイルを掲載）

※担任と児童どちらも掲載可。学びを促す点から，良いところやポイント等をコメント。

（５）水・金の朝学習の時間は，各学年学習の時間とし，児童の学習の進度に合わせてタイピングや学習を選ぶ。時間内に両方行っても良い。学習ではAIドリルを活用。

（６）大藤・神金・玉宮小で，各学年のクラスルームを作成。

**５　年間研究計画**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 実施時期 | 研究内容 | 関連行事 |
| １学期 | 1 | 4/3 | 研究課題，研究内容，研究組織，研究計画の検討 | ● 5月14日（水）塩山中学区ブロック研（塩山中学校の授業公開＆分科会への参加）● 5月16日（金）甲州市「夢をかなえる学び」のプロジェクト 教育講演会●6月27日（金）甲州市「夢をかなえる学び」のプロジェクト 教育講演会●全国学力・学習状況調査・県学力把握調査の分析（6月～８月） |
| 2 | 4/16 | 「研究概要と全体計画」「大藤小スタンダードの取組」「Teacher’s Noteの取組」 |
| 3 | 4/23 | 学習会 |
| 4 | 5/21 | 学習会 |
| 5 | 6/9 | WEBQU調査1回目実施→ブロックごとにWQEBQUの分析及び対応策の検討 |
| 6 | 6/19 | 学習会 |
| 7 | 7/9 | WEBQUをもとにスクールカウンセラーとの懇談会 |
| 夏休み中 | 8 | 8/18 | 一人一実践の確認と2学期の研究の方向性を確認教育課程説明会還流報告，インクルーシブ教育研修 | ●教育課程説明会●８月８日（金）　教協　教育講演会 |
| ２学期 | 9 | 9/24 | 研究授業指導案検討 | ●「主体的に表現する児童の育成」に迫る授業実践（一人一実践）（９月～１２月）●研究授業のための指導案検討（9月～1０月）●10月22日（水）甲州市「夢をかなえる学び」のプロジェクト 教育講演会●１２月2日（火）甲州市「夢をかなえる学び」のプロジェクト 教育講演会 |
| 10 | 10/29 | WEBQU2回目実施→ブロックごとにWQEBQUの分析及び対応策の検討指導案検討 |
| 11 | 11/12 | 研究授業 |
| 12 | 12/10 | 研究授業・一人一実践検証，研究紀要作成に向けて |
| ３学期 | 13 | 1/21 | 各教科の年間指導計画・単元計画の確認・見直し |  |
| 14 | 2/2 | 研究のまとめ・成果と課題の把握・来年度に向けて |